旬の人 vol.25

ジャンボ鬼小屋を作りはじめて10年

久保川 志丸 さん
（調川・松山田、57）

久保川志丸さんは、鬼火たき用のジャンボ鬼小屋を作りはじめて今年で10年目になりました。

鬼火たきは、しめ縄や門松などの正月飾りに火を放ち、1年の無病息災や家内安全を祈願するもので、中に正月飾りを入れて燃やす小屋が鬼小屋です。以前は、同地区のPTAで作っていた鬼小屋。久保川さんは、伝統行事を残したい、たくさんの人に入ってもらいたいという気持ちから、ジャンボ鬼小屋を一人で作りはじめました。

今回の鬼小屋は、久保川さんが所有するクレーン車を使い、昨年11月中旬に3日間かけて制作。竹約150本を使って高さ7メートル、幅5メートルの四角すいの骨組みを作り、そこに新わら約1トンを竹とビニール紐でしばりながら組み立て、中には電灯と囲炉裏を設置しました。

1月7日には、地区の住民たちが持ち寄った正月飾りを鬼小屋の中に入れ、久保川さんが火を放つと鬼小屋は勢いよく燃え上がりました。

久保川さんは「毎年、12月中旬から正月にかけて、100人ほどの人が訪れ、見学したり中に入って一緒に食事をしたりしています。山から竹を切り出す作業が大変ですが、鬼小屋を楽しみに訪れる人も多いので、恒例の行事として、これからも続けていきたいですね」と話していました。

▶1月7日の鬼火たきの様子